

優しい嘘を

マンガ / 山崎晋

わが家のすこやか日記

作品

中学生部門

母がおくれて帰って来る日のことです。私と父は母の帰りを待っていました。突然、父が「何か、作ってみよう」と言い始めました。「へ？」今まで料理はほとんど母に任せていた私はぼう然としました。でも、いつも母に任せているのは悪いと思う、みそ汁を作ることになりました。1人だと、少しあわてましたが、何とかみそ汁らしい物を作りました。味見してみると、驚きました。味がうすいのです。母と父に出すのが急に恥ず

かしくなりました。でも、帰って来た母と、父は一口飲んで「ええくらいの味じゃがん。」と言ってくれました。それに、嫌な顔いっさいせず、完食してくれました。「嘘じゃろ。」と私が言っても「いや、これがええんじや。」「また、作ってな。」と言ってくれました。とても心が温かくなりました。だから、その日作ってくれた母のおいしい料理は決して残さず、笑顔で完食しました。これからもずっといいきたいと、心から思いました。

